

しておく」ことです。そのためには、計画の段階での助言が大きな意味をもってきます。

(2) 話し合い活動での指導・助言

◆指導・助言が必要な時

第9号でお知らせした3つの観点からまとめてみます。

【課題性の観点から】

- ◇ 発言が止まったり、片寄ったりしたとき
- ◇ 発言の内容が分からなくなったとき
- ◇ 話し合いが横道にそれたり、行き詰まったりしたとき
- ◇ 話し合いが不十分で採決が早すぎるとき

【相互性の観点から】

- ◇ 意見が対立して混沌としたり、收拾がつかなくなったりしたとき
- ◇ 関連性のない意見がバラバラと出始めたとき

【現実性の観点から】

- ◇ 自治の範囲を越えそうなとき
- ◇ 実践の可能性に無理があるとき

話し合いの内容が深まれば深まるほど、司会者としての判断に迷うことが多くなります。そこを乗り越える時の醍醐味が何とも言えないのですが、そんな場合に適切な助言というものが必要になってきます。

◆指導・助言をするときの留意点

- ☆ タイミング (いつ与えるか、助言をする時期を考えましょう)
- ☆ ポイント (何について与えるか、中心を押さえて助言しましょう)
- ☆ ボリューム (どのくらい与えるか、分量を考えましょう)
- ☆ レベル (どの程度のものを与えるか、子どもたちの能力や段階を考え
え
ましょう)

◆助言の機能 (橋本氏の著書より)

私自身、とっても勉強になりましたので、紹介しておきます。詳しくは、前掲書をお読みください。

- ☆ ガイド型…子どもの動きを方向付ける機能
 - *方向付ける
 - *価値付ける
 - *意欲付ける
- ☆ 活性化型…子どもの動きを生み出したり、活性化したりする機能
 - *ゆさぶる
 - *種をまく
 - *のせる
- ☆ 援助型…子どもの動きを助ける機能
 - *整理する
 - *情報・ヒントを与える
 - *指摘する
- ☆ コーチ型…子どもが自身で動けるように力を鍛える機能
 - *進め方・やり方に関わる方法・技術をコーチする
- ☆ 指示型…子どもの動きを明確に規制する機能
 - *学級経営上の指示をする
 - *逸脱について注意する

◆助言の仕方

☆司会グループへの助言のポイント

- 指示を書いた紙でヒントを与える場合が多いですね。ポイントは2つです。
 - *事前に十分打ち合わせておきましょう。
 - *内容は的確な指示にしましょう。

- 直接言葉で助言を与える場合もあります。その場合のポイントは4つです。
 - *司会者グループに混乱が感じられるときに行いましょう。
 - *「先生に進め方でお尋ねします。」と言えるように指導しておくことが大事です。
 - *司会者の代わりに問題点を整理する場合、教師の意見は入れないようにしましょう。
 - *全体に対する指導も兼ねていることも忘れずに。

☆全体に対する助言のポイント

- 話合いのルールに関することは指導者としての発言なので、司会の指名は待たずに、必要なときは、遠慮せずわって入って指導しましょう。
- (上のポイントと矛盾するようですが)そぐわない意見が出たら即! というのではなく、やはり「待つ」ゆとりを持ちたいものです。
- 話合いの最後に評価を入れた指導を行います。
 - ア 司会に対して
 - *発言の求め方・打ち切り方、対立点の整理の仕方、意見のまとめ方・つなげ方、採決の仕方について評価してあげましょう。
 - *話合い活動前にしておくことと当日の内容をつなげて励ましの言葉をかけることを忘れずに。
 - イ 全体に対して
 - *討議に積極的・協力的だったか。
 - *発言をするとき、共通点や対立点をはっきりさせたか。
 - *感情的な発言はなかったか。

(3) 実践での指導・助言

☆実践するのを忘れていたり、人任せにしていたりした時に行います。

- *注意よりも、励ましを
- *何のための実践か、課題にフィードバックさせる助言を

☆実践の中で困っているとき

- *子どもが尋ねに来たときがチャンス!
- *友達と協力してできないかを促しましょう。
- *失敗した場面があったら、どうしたらよいかを一緒に考え、次の実践にその失敗を生かせるように助言しましょう。

★指導・助言のタブー

子どもたちが決定した後、先生の都合で「駄目です」ということです。こういう状況に陥るということは、事前の指導が不十分だったということ进行を自省したいものです。

2 学級通信を考える～その7：子どもの作品

山口市立平川小学校 梶田崇晴

学級通信には、よく子どもの作品が載ったものを見る人が多いですね。私は、子どもの作品を載せることには大賛成です。

私がよく載せていたものは日記だとかノートの例などです。これは、保護者にも評判がよかったですね。これだと、保護者も子どもも必ず読んでくれます。

日記の場合には、日記の横に一言コメントを書いてあげるとよいでしょう。ノートの例というのは、子どもたち全員に真似をしてもらいたい例を紹介するようにしていました。

子どもの作品を載せる場合に気をつけたいことは3つです。

一つは、載せる場合、事前にその子どもに許可を得る、ということです。中には、自分の日記を載せて欲しくないと思っている子どももいますので気をつけたいものです。

二つ目は、どの子どもできるだけ同じ回数だけ載るようにすることです。私の場合は、名簿に記録していくようにしていました。

三つ目は、日記の場合、パソコンなどで打ち直して、活字体として掲載するということです。これについては、子どもの日記をそのままコピーして貼り付けるという方法もあるのですが、やはり、誤字脱字があった場合のことを考えたり、子どもによっては直筆の文字が載ることを嫌がる者がいることも考えたりすると、面倒ですが、活字体にする方がいいと思います。

ここでもう一つ考えておかなければならないことは、最近よく話題としてあがる「個人情報取り扱いについて」です。

子どもたちの作品は当然、個人情報に当たります。それを保護するという立場からすると、誰が見るか分からない学級通信に作品を載せることはタブーとされるべきことかもしれません。

しかし、学級通信に載せることによって生じるであろう個人の不利益と学級通信に載せることによって期待できる教育的価値を比較した場合、私は、後者の立場を押したいですね。

3 メルマガ情報交換広場

11回に分けて連載してきました「子どもが主体的に取り組む話し合い活動」は、今回をもって終了とさせていただきます。ご愛読、ありがとうございました。

次は何を連載しようかと、思案中です。

千葉の三浦先生から「キャリア教育」について連載して欲しいという要望メールが

届きました。私自身もとっても関心のあるテーマですが、連載するほどの実践をもっていないです。

読者のみなさんで、キャリア教育の実践を紹介していただける方はありませんか？もし「書いてもいいよ」と思われる方がおられましたら、お知らせください。よろしくお祈りします。

学級活動の実践を紹介して欲しいというメールが届いています。お互いの実践を交流する場がくれたらいいなと思っています。ミニ実践を紹介してください。

実践等の原稿はこのアドレスまでお願いします。

☆ sugi-net@c-able.ne.jp

4 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第23号は1月中旬ごろ発行予定です。
次号では、「卒業にむけての取組み」について紹介する予定です。
原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は122名です。もっともっとメルマガ仲間を増やしたいです。
お知り合いの方にこのメルマガを紹介してもらえませんか。
登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆ブログのお知らせ◆◇◆

学級づくりについて、特別活動の実践を絡めながら、チョット思ったことや考えたことを綴るブログを書いています。明治図書さんの「Edu ブログ」、とっても簡単で、私にも使えます。いま、なかなか調子よく進んでいます。もし興味ある方はのぞいてみてください。

<http://edublog.jp/moomin/>

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン
☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで
☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部
梶田崇晴（山口市立平川小） 津村元文（防府市立西浦小）
能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小） 吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====